



Title	回轉扉
Author(s)	古野, 秀雄
Citation	大阪公衆衛生. 1973, 29, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84288
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

せんだってアメリカ文化センター館長アルバート・ボールさんから一冊の小冊子をいただいた。これは1970年に、ニクソン大統領の環境教書を文学博士高山岩男教授が同年解説されたものであり、加えて米タイムス誌の現代科学的産業技術から発生した公害の実体に関する論文と、さらに訳者の哲学者としての見解を加え述べられている。形而上学的立場からの高山博士の考察は、われわれ科学的実際的立場に立ってものを考えがちの者にとっては大変興味深いものがある。

紙面の都合で多くを紹介することが出来ないのは残念であるが、この書物から確かに「頂門の一針、を打たれた感じがした。

教書の冒頭に「公害との戦いは悪人を探すことでない。われわれの環境に加えられた損害の大部分は悪人達の仕業ではないし、また技術の進歩、あるいは人口増大の必然的副産物でもない。悪意のある意図からではなく、われわれの行為のあらゆる結果を考慮に入れないことの結果として生じる。不注意にもわれわれ共有の環境に害を加えることは許してしまった。今、われわれの土地・水・大気の資源がいかに貴重であり、いかに害を被り易いかを悟るに至った」と述べている。

近代産業、その中核に位する大量生産的機械技術らが惹起した人間疎外から健康破壊に及ぶ公害にまで発展した経緯等について、高山博士は、それは人間を至上の権威として、人間的自我を絶対的存在とする自我絶対主義に由来する近代思想に、かくなる運命と禍根は潜むと説いている。

なにはともあれ、今や公害は広く深く滲透し、世論はその予防・防止・救済・補償を強く望んでいる。公害対策はその範囲は広く、これに関与する機構も複雑である。今こそそれぞれの立場の人人が真剣にこれと対処し、「自然に弁償」する謙虚な気持を心とし、当面する具体策を実行に移すべきときである。

(大阪公衆衛生協会副会長・大阪府立公衆衛生研究所長)